

奈良県クビアカツヤカミキリ防除推進事業～GIS活用による予測・警戒強化、予防技術検証～ 【奈良県】

事業の背景・目的

- ・奈良県においてサクラは、生物多様性の重要な構成要素であるとともに、万葉集の歌に詠まれ、寺院の古木がサクラの名所として継承されるなど、奈良の歴史や文化を育み、観光資源としても重要な花木となっている。
- ・奈良県では、令和元年度に初めてクビアカツヤカミキリの被害が確認されたことから、令和2年度生物多様性保全推進支援事業を活用し、被害の早期発見と被害拡大を抑止することを目的とする「奈良県クビアカツヤカミキリ早期防除推進計画」をとりまとめた。
- ・特に奈良県吉野町の吉野山には主にヤマザクラが約3万本生育しており、毎年春には多くの観光客が訪れる国内有数のサクラの名所となっているが、比較的近い場所でクビアカツヤカミキリが確認されており、早急な予防対策が必要である。



事業の内容

事業①GISを活用した監視体制強化及び早期防除技術の指導

→サクラ被害の早期発見、早期駆除に向けた体制整備

- GISを用いた拡大予測等
 - ・これまでに登録したデータから本県の拡大傾向等を分析
 - ・分析結果を活用して施設管理者へ注意喚起
- 調査および監視技術の指導のため樹木医を派遣
- 早期防除技術指導・実習のため樹木医を派遣

事業②吉野山における予防対策の検証

→重要地域(吉野山のヤマザクラ等)保存に向けた実証試験

- 薬剤散布の施工確認、薬害等影響評価

事業③普及啓発の強化による県民運動への展開

→監視の目を県全体に広げ、早期駆除につながるための啓発事業

- 防除講習会等の開催
- 普及啓発用資材作成
- 県民からの公募による防除ボランティア

得られた成果

(1) 主な成果等

- ・県内の被害状況および拡大の傾向についてその一端を把握することができた。
- ・サクラ見守り隊ボランティア隊員には、募集期間が十分でなかったにも関わらず119名もの応募・登録があった。報告書提出数は205件、うち62件の被害確認と6件の成虫確認ができた。
- ・防除指導を通して、市町村担当者・県庁の施設管理所属の防除意識が向上し、一部の被害確認市町村および県庁施設管理所属において単独で防除および防除指導が実施できる体制が整いつつある。

(2) 今後の展望

- ・県民運動を集団活動にも発展させ、防除の強化を実施予定。
- ・行政機関が所管する施設における防除は各施設管理者が単独で防除にあたるよう引き続き防除指導等を通して体制を整えていく予定。